

グループ会議の総括

◆ 両グループに共通する内容

① 情報提供・情報発信

【主な意見】

2 R	資源化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者は若い世代に比べ情報を得ることが難しい。 ・ リユースの取組は市民に十分浸透していない。 ・ 市の取組に参加した市民が情報発信のキーパーソンになってもらうとよい。 ・ 行政による情報発信だけでなく、市民、事業者からの情報収集も含め3者が相互にコミュニケーションを取る形が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクルの仕組みとリサイクル品に関する情報提供も必要。 ・ 不動産業者を通して、市民にごみの分別ルールを説明する。 ・ 若年層に向けた啓発はスマートフォンを活用する方がよい。 ・ ポスター掲示は、トイレや食堂などの市民が留まる場所がよい。

両グループとも、具体的な取組に関する意見の中には、それらの取組を対象となる方にどう伝えるかといった情報提供・情報発信の在り方に関する意見が多くみられた。

② 事業者との連携

【主な意見】

2 R	資源化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食店において、提供する量を調節できる仕組みや、食べ残さないことに対するインセンティブがあるとよい。 ・ <u>不動産業者を通して、テナントを借りる事業者にごみの分別ルール等を説明する。</u> ・ <u>優良事業者の表彰制度を導入する。</u> ・ <u>民間のリユース状況を把握し、積極的に支援する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団資源回収を促進するとともに、回収拠点を整備することで、市民の利便性を高める。 ・ <u>不動産業者を通して、市民にごみの分別ルールを説明する。</u> ・ <u>優良事業者の表彰制度を導入する。</u> ・ <u>民間事業者の回収ルートや回収量を把握する。</u>

事業者との連携については、食品ロスの削減や資源回収の促進等の「ごみの減量・資源化」の取組と、不動産業者を通じた情報提供等の「市民・事業者への普及啓発」の取組がある。どちらの取組においても、取組の評価を行うための状況把握や表彰制度の導入等により、事業者自身にインセンティブを与えることが重要との意見が出た。

③ 高齢者への対応

【主な意見】

2 R	資源化
<ul style="list-style-type: none">・ <u>重いものや大きなものが運べない。</u>・ 物に愛着があるため、処分や整理が難しい。・ 若い世代と比べ、情報を得ることが難しい。・ 遺品整理士や見守りを行う人と連携する。	<ul style="list-style-type: none">・ <u>重いものや大きなものが運べない。</u>・ 高齢になることで、分別が難しくなる。

高齢化社会への対応として、回収拠点まで運べない高齢者への支援など、高齢者の特性を踏まえた意見が出た。

◆ 2 Rと資源化の関係性

今回のグループ会議のテーマである「2 R」と「資源化」は、3 Rの取組をグループ分けしたもの（リデュース・リユース＝2 R、リサイクル＝資源化）であることから、今後の答申の作成に当たっては、両グループで議論した内容を踏まえて、3 Rの推進について議論することが重要である。

また、循環型社会の構築に向けては、リデュース、リユース、リサイクルの順に優先的に取り組むことが求められている。